

ROOT

HAPEKAWA

RIKUDOU KOUSHI UC PRESENTS



FOR ADULTS ONLY



ROOT
HAPEKASHA
RIKUDO-JUKU PRESENTS

episode 1

信じられないことに僕は——

羽川翼と付き合っている

その日の僕は
あり得ないくらい
盛り上がっていた

特にきつかけが
あったわけじゃない

しいて言えば
なんとなく
二人きりなことを
意識した程度だ

初キッスにしては
ちよつとヘビーだったかと
後日一応反省した



初めてのキスで
舌を受け入れて
軽く喘ぐ羽川なんて



待つて...



つい調子に乗っても
おかしくないとと思う

ここが教室だということ
危うく忘れそうになった

よし 土下座の準備だ

そうじゃなくて…
もう…

私…
初めてなんだよ

待って…
阿良々木君…

すみません
調子にのりました



僕は
妹で経験済みだ

悪い羽川



えー

いや……僕は
場を和ませようと……

そこまで
引かなくても
いいんじゃないか？



阿良々木君が
変態なのは
知っていたけれど……

ファーストキスから
正座攻め……
意味は分からないが
悪くない

まさか
兄妹でこんな……

いや子供の頃の
話だし



阿良々木君
正座！

子供の頃？

この世の
終わりを
みたい
な顔
をした

子供が
ふざけて
軽く
チューし
ただけ
です
ごめんな
さい

つい最近もしてしまっていることは
一生黙っていよう……それはともかく

ちゅう……？

あ……

ごごめんね！

私誤解……

羽川が勘違いをするほど
テンパリながら必至で口にした——

一世一代の誘惑の台詞を
危うくスルーするところだった

羽川

「こんなこと」って
どんなことだい？

阿良々木君……
違うんだよ……



妹で経験済みだけど





うん…

はーん

ん…

僕も羽川が初めてだ

あ…

このへんも妹で経験済みだけど



とりあえずそのへんの秘密は墓場まで持って行こう

羽川…



阿良々木君…

はーん

待って…

はーん

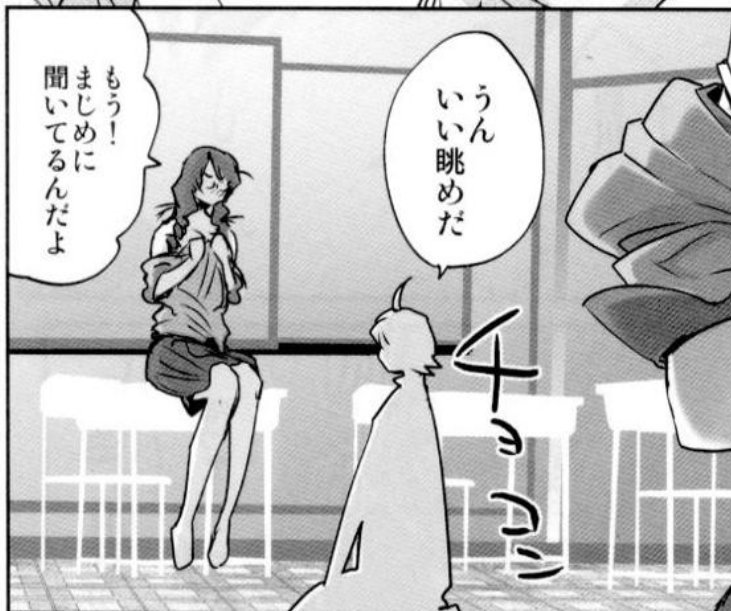


そんなことより今は――

目の前の――

こんないやらしい
顔をした羽川に
集中しよう

えっと：
私は自分で
脱いでいいのかな



うん
眺めだ

もう！
まじめに
聞いてるんだよ

いい？
私阿良々木君が
どんなに変態でも
確かめようが

阿良々木君は
正しい初体験を
リードする義務が
あるんだよ

ああ羽川――

教えないけど

初体験に
教室は
ドンアウトだ

羽川は
なんでも
知ってる
けどな

なんでもは
知らないわよ
知りたいのは…

もう…
また言わせる…

阿良々木君の事だけ

CAUTION!





はっ…
話の流れからすると
私…そのスイッチを
押しちゃったの？

そうだ



あっ…

羽川：
男には
スイッチが
あるんだ



死めんだ！

男は
そのスイッチを
押されると死ぬ



ちゅ
ちゅと
待って！
阿良々木君

こんなところ
止めるなんて
羽川！
僕を殺す気か



んっ…
私の責任なのかな…

正しくは
悶え死ぬ！

やりすぎた

ごめんなさい
羽川さま
もうしません



僕はもう死ぬかも
しれない…

まっ間違えないでね！



女の子は
誰でも
こうなるん
だから！

当たり前
の身体反
応なの
一種の防
御機構な
の！

性器を
広げた事
は怒って
ない？

え

…そして
男側の
フォロー
全部取
られた

え



相手が痴漢でも
レイプ犯でも
刺激を受ければ
同じなの！



目を突いたら
涙が出るのと
同じなんだよ！



酷い事を言われて
少し萎えた…

しょんぼり

え…



ウソだけど





羽川が
僕のを舐めてる

なんてことだ

暖かい……



待て！
一生懸命
舐めすぎだ！

いや
啜っている
と言った方が
エロいのか？



はね……

待った羽川！
僕が悪かった！

なんか
大ひく
なつふあひよ？

ちよ……

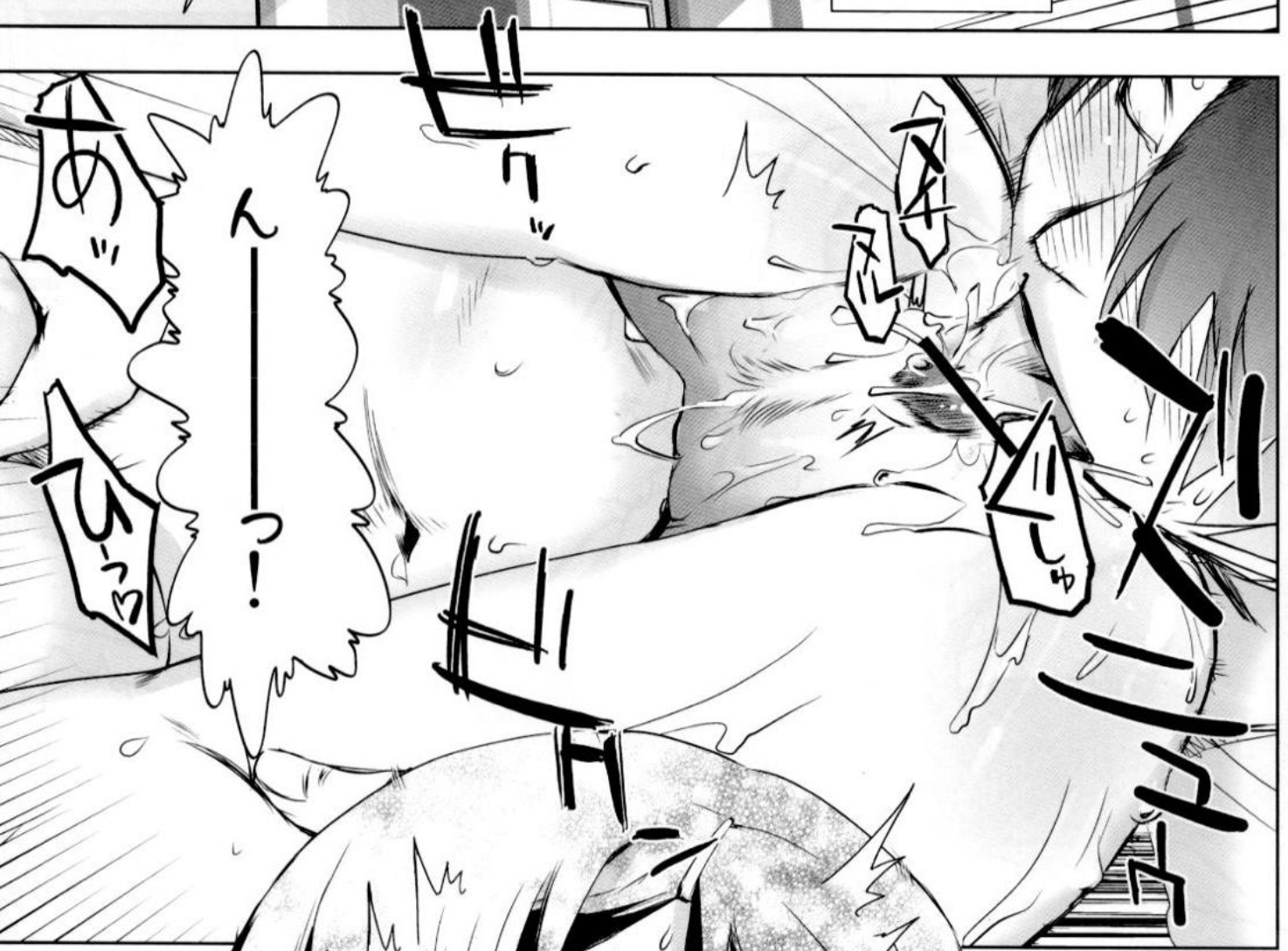


そんな…

そんな
訳の分からない
女の使い方をする
女なんだ！

あっ

えっ？



ひやめえ

阿良々木君！
舌…
入れすぎっ…

これは

あーっ

あーっ

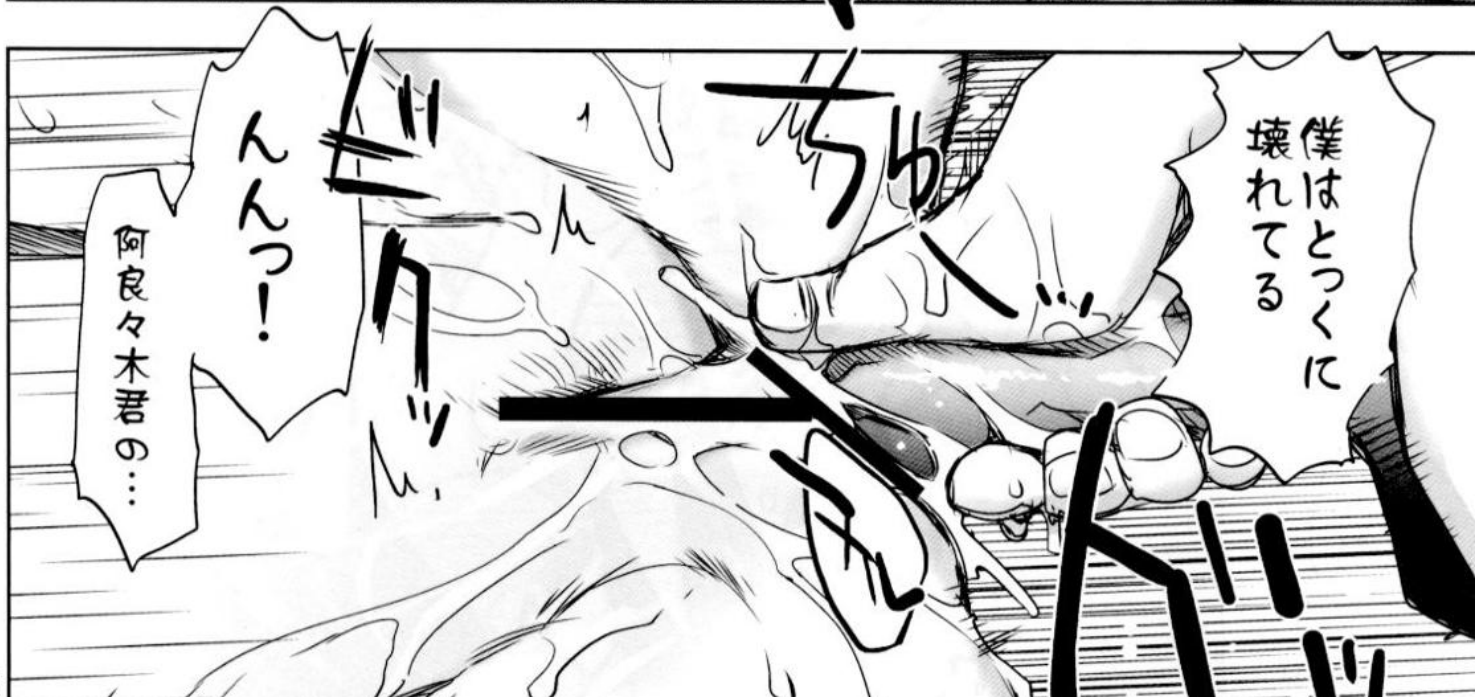
あーっ

あーっ

あーっ

僕のだ







あーッ

はいつてっ...

あっ

のっ

はいつてっ...



羽川に
挿れてるって
だけでまた
イキそうだ

一応
言っとくけど
普段は遅くて
苦労する
くらいなんだぞ

ん...

あ...

ひや...

うん

あーッ

うっ

あーッ

あーッ

ん...

あ...

あ...

あ...

あ...



阿良々木君の...
熱い.....

はー

はー

こほこほ...

はー

はー

はー...

はー



そんな事言うとう
回復しちやうだろ

にやあああ



また...あ

あ...あ

あ...

かき回してる

あふあふ...あへん26...

はっ入っ



あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ



二人で
盛り上がったつもりが…

羽川は承知の上で
舞い上がった僕に
つきあってくれたんだ

えっと…
色々…

反省してます…

やっぱり羽川は
なんでも知ってるんだな

もう……

なんでもじゃないよ

そうして
恥ずかしそうに
キメ台詞を言う
僕の彼女はとても
エロくて

知ってることだけ

もう一回とか言ったら
殴られるだろうかとか
考えた

僕は——

羽川翼を選んだ

